



子規の道

(しきのみち)



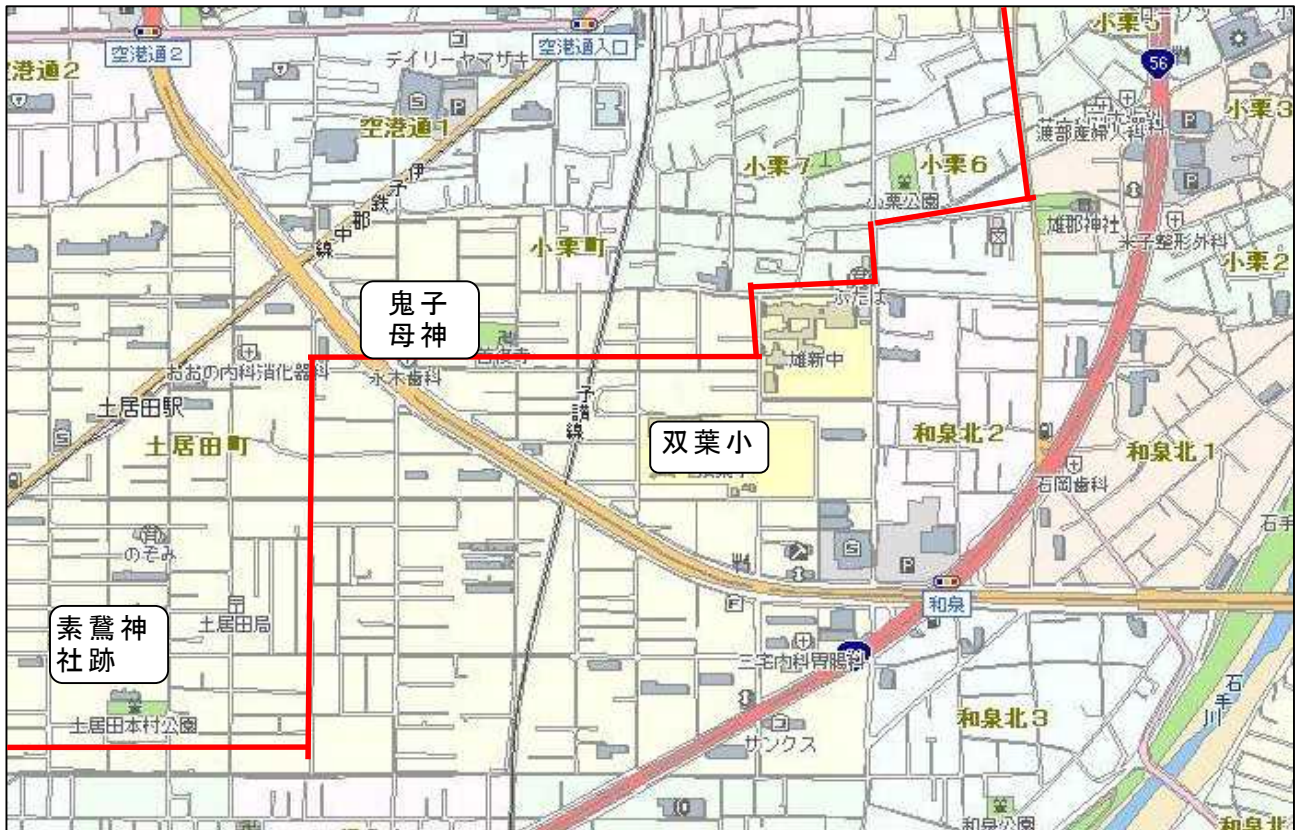
正岡子規は、明治28年に日清戦争に従軍記者として中国に渡りました。しかし、病気になってしまい、8月25日には松山に帰ってきました。10月19日に帰京するまでの間、松山近郊に、5回散策をして俳句を作っています。それをまとめたのが、「散策集」です。10月7日には、正宗寺、小栗神社（今の雄郡神社）、御旅所の松、鬼子母神、保免の宮（日招八幡神社）、土居田の社（素鷲神社）、竹の宮（三島神社）手引き松、今出海岸方面に行っています。

今の建物を目印にすると、市駅近くの正宗寺から末広商店街を通り、県病院辺りから雄郡小学校へと抜ける道だと思われます。雄郡神社から、鬼子母神の前の道（現在の善復寺の前の道）に出て、素鷲神社（現在の土居田本村公園の辺り）を目印にして保免、今出へと向かいました。



大正時代に行われた耕地整理等により、当時の道と現在の道とでは大きく異なっており、特に土居田地区の中をどのようなルートに進んだかは定かではあり

ません。今ではなくなっている道を通った可能性もあります。地図の中のルートはあくまでも想像でしかありません。



御旅所の松があったのは、雄新中学校の正門から西へ約100mほどのところ
です。雄郡神社から出た神輿が最初に休む場所（御旅所）だったので。

子規は、人力車を使ってこのルートを散策し、俳句作りを行ったようです。

「散策集」には、

「かねて叔父君のいまそかりし時、余戸にすみたまいしかば、我おきなき頃は
常に行きかいし道なり。」

とあり、子どもの頃に、おじが余戸に住んでいたので、よくこの道を通って家
に行ったという思い出を書いています。また、

「御旅所の松、鬼子母神、保免の宮、土居田の社など皆昔のおもかげをかえす
そぞろなつかしくて

鳩麦や普通いし叔父が家」

とあります。土居田の社というのは素鷲神社のことですが、今は雄郡神社に合
祀されており、その跡は土居田本村公園横の駐車場になっています。この俳句に
出てくる「鳩麦」は、後に「寒山落木」の中で「薏苡（じゅずだま）」になって
おり、鬼子母神堂にある碑には、「薏苡」が使われています。

参考文献

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）